



【イエスのように真の癒しと回復を！】

説教者：鄭南哲牧師

聖書本文：使徒の働き3章1-10節・暗唱聖句：使徒の働き3章6節

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお変わりなく、みんなお元気でしたか。

<今日の本文>

今日の聖書に出ている体も心も苦しんでいたある人が出ています。生まれつき足の不自由な人で毎日人々に運ばれて、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門の前に置いてもらっていた人でした(2節)。

生れてから足が動かず歩けない人であったため、周りの助けがなければ何も出来ないと無力を感じ、他の人々の助けに依存しながら生きていた人でした。使徒の働き4章22節によると、彼はおよそ生まれから40年間ずっと足が不自由でできないまま生きていた人であることが分かります。ここで「生まれつき足の不自由な人(2節)」は、決して癒されることが望めない絶望的な状態にある意味であり、「施しを求める(3節)」に回答するギリシャ語で、未完形で、彼がいつも施しを求め続けていた人生であることが分かります。

彼の人生の絶望というのは、いつも飢え乾き、施しを求めなければ生活が出来なかったため、今日の教会のような聖殿の門の前に毎日運んでもらって、座り込んで聖殿に入る人々からお金の施しを求めていたとてもかわいそうな人生でした。何よりも残念だったのは、実は彼はだれよりも聖殿の一番近くのところにいたにもかかわらず、聖殿に入ったことがなく、まったく神様との関係のない生活をしていました。彼は一度も聖殿に入ったこともなく、そして聖殿に入る人たちのみならず、神様ともまったく関係のない生活でした！彼は町の人々のみならず、神様とも断絶(だんぜつ)された人生を送っていた孤独な人でした。もしかしたら、彼自身はこんな体で、こんな施しを求める貧しい者で、こんな汚い服を来て、悪臭(あくしゅう)がひどく鼻をつくのに、神の宮に入る資格なんかないのではないかと思いついていたかも知れません！

彼は“教会って生活に余裕がある人が行くところで、ぜいたくだぞ。私のような何も出来ないやつは神様に決して近づけない。”と思ったかも知れません。自分のように病気の人で、人々だけではなく、神様さえも忌み嫌われていて存在であり、人生ではないかと思ったかも知れません。

しかし、愛するみなさん！そんな彼がイエスキリストの御名を紹介された瞬間おどるべき出来事が起こります。いったい彼に何が起こったのでしょうか。40年間ほどずっとすわったままこじきをする生活をしていた彼が、8節では、まっすぐに立ち上がり、踊り上がり、歩き出したのです。つまり癒されたのです！ずっと彼の人生を縛っていた根本的な問題が解決されました。彼に今まで経験したことのない新しい力が湧いて来ました。彼に、これから自分の力で生きる希望が与えられました！それだけではありません。8節後半には、神を賛美しつつ、ペテロとヨハネと一緒に宮に入ることも出来ました！癒された後、彼はうまれて初めて、神の宮聖殿に入りました！神を賛美しながら、聖殿に入った！それは、今まで神様とは関係がなかった彼が神様を賛美し、そして神様を礼拝し、聖殿の中にいる人々とともに交わることができたのです！彼はもう孤独な人ではありません！どうしてこんなことが可能になったのでしょうか。きっかけは、キリストの弟子の二人、つまりペテロとヨハネを通してでした。先にイエスキリストを信じていたペテロとヨハネを通して、イエスキリストの御名が与えたからでした！

愛する信仰の家族のみなさん！クリスチャンとしての私たちの特権の一つは何ですか。私を救ってくださったイエスキリスト！私の人生の痛み、悩み、問題を癒し、回復させて新しく造り変えてくださったイエス・キリスト！私の人生に救い、回復させる力となるイエス・キリストを誰かによって紹介されたことを通して、はじめてイエスキリストの御名について聞き、ついに主イエスキリストと出会える事が出来たのではないのでしょうか。今日、我らもペテロとヨハネのように、実際イエス・キリストの御名にある人生を救い、癒し、回復させる御力を体験するためにどうすれば良いでしょうか。

①イエス・キリストの御名によってつねに祈る必要がある

今日聖書の本文ではペテロとヨハネという主の弟子を通して表れたその驚きの力の源は彼らがいつも主の前にささげた祈りにある事が分かります。今日の本文3章1節ではこのように書かれています。「ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。」ここで‘祈り’という言葉が使徒の働きの中で4回目に出ている事がわかります。(「いつも心一つにして祈っていた。(祈りに専念していた)(1:14)」、「彼らはこう祈った。(1:24)」、「彼らはいつも、使徒たちの教えを堅く守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。(2:42)」など使徒の働き全体では‘祈り’という言葉が32回も続けて登場していま

す。なぜでしょうか。使徒の働きは聖霊の働きであり、聖霊の働きは祈りの中でかならず起こされるからです！

御言葉を通して働いておられる聖霊の神様は祈りの御霊であります。祈りが神の御業と軌跡を起こすきっかけとなり、祈ることによって聖霊に力づけられ、満たされるパイプラインとなることを経験していた、初代教会の人たちはいつも懇切に祈りました。熱く祈りました。初代教会の信仰の家族は御言葉といつも集まっている時、共に祈る教会であり、散らされても、各自祈る事を忘れていなかったクリスチャンたちでした。

今日ペテロとヨハネは宮に何をしに上っていたのですか。そうです。祈るためです！

当時敬虔なユダヤ人たちは一日三回時間を決めて祈りの時間を持ちました。イスラエルの時間に6時間をたせば、こんにち私たちが使っている時間と同じになります。ですから3時だと朝9時、6時だと正午12時、朝9時は午後3時になるのです。

ところが、ペテロとヨハネが祈りの時間に宮にのぼって行った時間は何時でしたか。1節に「午後三時の祈りの時間に」、イスラエルの時間では9時つまり、今日の午後3時でした。ユダヤ人たちが一日中一番祈りたがらない時間帯は午後の3時でした。なぜならば、午後3時だといえ、昼食後、まだ何もしなくても暑い時だからです。

しかし、みなさん！ペテロとヨハネはその時間に祈るために宮に上って行ったと書かれています。ここで何を知る事ができますか。彼らにはすでにいつも祈りの習慣(先に、まず祈る・時間を決めて定期的に祈る)が見に着いていたということです。

ルカの福音書 22 章 39-46 節・マタイの福音書 26 章 36 節から見ると、イエスキリストが十字架につけられる前夜、ゲッセマネという場所に祈るために行かれた時、このペテロとヨハネを連れて行かれたのではないのでしょうか。しかし、残念ながらその時に彼らは祈ることが出来ず、ずっと眠り込んでしまっていたので、40節にイエス様からこう言われたペテロとヨハネでした。「それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らが眠っているのを見、ペテロに言われた。「あなたがたはこのように、一時間でもわたしとともに目を覚ましていられなかったのですか。」、そんな彼らが、いつのまにかイエスのように祈る者になっていたことが分かります！なので、イエス様がなされたように、彼らも用いられたのではないのでしょうか。

私は私たちが一生生活しながら、身につくべき習慣の中一番きよい習慣があれば、それはイエス様のように祈る習慣ではないのでしょうか。この祈る習慣がしみこまれていたため、祈りをささげに行く、彼らに予想もしなかった素晴らしい出会いと、神の力を体験し、また大胆にイエスキリストの御名を伝える勇気をも得られたのです。

*「人はひざまずいて神様と顔をあわせるときこそ一番偉大になる。」(イギリスの医者出身のロイド・ジョンス牧師)

*「信仰生活において祈りの代わりにするものはありません。祈り以上のこともない。我らの人生は今自身が祈っている以上にはならないのだ」(EM バウンズ)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん、ここで祈りについて大事な一つを学ぶことができますでしょう。

祈りは何か問題がある時、困っている時だけ神様に求めることではないと言う事です。そうなると、却って祈る事がない時が平安な時だと思い、祈らないのはまるで祝福を受けているかのように考え込んでしまいます。しかし、それは大間違いです。

祈りの定義はみなさんも御存知のように、神様との関係の中会話をする事であり、交わる事でしょう。神様の御心を探ることでもありますので、祈ってないと言う事は神様との関係がうまく行っていない証拠であり、主の御心より自分の思い通りに、自分の力で生きている状態のサインではないのでしょうか。まるで親と会話がほとんどない子供たちという親子の関係が形は持って中身は幸せじゃないと言う事と同じです。特に、祈らなければ、主の答えを頂くこともできないので、イエスキリストの御名にある力を実際自分が経験する事もできないのではないのでしょうか。常に祈らなければ、神の力が注がれていても神の答えだとすら、気づかないうちに流してしまう事をよくあるでしょう。なので、祈りは信じている者たちだけが真に生きておられる全能の父なる神様にできる特権であり、祝福である事を忘れないようにしましょう。

ですから、今日本文の主の弟子たちのように、いつも祈る大切さについてはいくら強調しても足りないと思います。

祈りの習慣はとっても大切です。礼拝も、牧場も、日々の生活の中でも祈ることを先に、まずすることが出来るクリスチャンプレイズチャーチの全家族となりますように切にお祈り申し上げます！祈る親の子供たちは決して滅ばされません。まず親である私たちが祈りの習慣を身につけ、子供たちにも祈りの習慣を教えるようにしませんか。(牧場での祈り大切さ、娘の証し内容:水曜祈り会の時に確信されたこと！)

②イエスキリストの御名の力と必要さを確信する必要がある

クリスチャンたちである我らは、人々にいかにイエスキリストが必要であるのかを眼目(がんもく)を持たなければなりません。

宮に祈るために行くペテロとヨハネは途中で足のきかないあるこじきさんに出会います。

もしかしたら、今彼らにとっては祈りの時間を守ることが今優先で大切でしたが、彼らがこの人に目をそばめませんでした。むしろ彼のところにとどまって彼を見つめました！

4節を見ましょう。「**ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。**」

その時この人は何期待したでしょうか。ペテロとヨハネの見かけがみすぼらしく、あまりお金もないみたいなので、コインでもいくらかはくれるだろうと思ったかも知れません。しかし、みなさん、ペテロとヨハネが彼にあげたのはお金いくらではなかったことに注目してください。かりに私たちがこのような場合にあわれたとすれば、もちろん物質的助ける事も最善をつくすべきだと思います。しかしペテロとヨハネはお金が、彼の人生の根本的な問題解決ではないことを確信していました。一時期だけの助けにはなるお金以上の何かがか、彼に必要であることを深く見つめていたのです。

どなたか**6節**を読んでくださいませんか。ペテロとヨハネは目の前の人を見ながら同じ考えをします。

「すると、ペテロは言った。「**金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。**」

‘私がこの人のためにやってあげれることは何か。私にある一番大切なもの！この人にとって一番必要なもの。不安定で、何の希望も見えないこの人に一番力となれるもの！彼らは同じく自分たちが経験した“イエスキリストの御名”という答えを考えました。しかし、一日一日施しをもらって生活しているこの人が期待していたのは、ただの一食にでも買える金だったかも知れません。足のなえたこの人は自分自身に、イエス・キリストが必要であることすら知りませんでした！しかし、弟子たちは確信、知っていたのです！すでにペテロとヨハネ自分たちが経験したからです。

イエスキリストを知り、受け入れ信じることこそ、お金いくらよりも、彼の絶望的な人生が変わる！必ず恵まれ、救われる！必ず今の人生の問題と苦しみから必ず解放され、癒され、回復されること！イエスキリストによっていかにおどるべき神の祝福を頂き人生が変わるのかペテロとヨハネは知っていました。二人自身がイエスキリストによって神の愛と救いを、人生の回復と癒しを体験したからよく知っていました！そのため、ペテロとヨハネは、イエスキリストを求めても、必要さも知らなかった彼に一番必要とされるイエスキリストの御名をプレゼントし、与えたわけでありです！そしたら、イエスキリストの御名は彼に奇跡を起こされました。イエスキリストの御名こそが根本的な問題を解してくださったのです。

みなさんはイエスキリストが今も生きておられ、働かれるお方であることを心から信じ、確信しているでしょうか。

今日私たちも、関わる全ての人々に本当にイエスキリストが必要であるのを見て、確信しているでしょうか。

実は、我々が関わる人々にいかにイエスキリストの御名が絶対必要であるのかその確信がなければ、大胆にイエスキリストの御名によって祈ってあげることも、紹介することも、分かち合うことも、伝えることも出来ないかも知れません！

今日のペテロとヨハネのように、わたしとみなさんの中に愛する人々に、子どもたちに、すべての出会い、関わっている人々に対し、彼らは求めなくても、気づかなくても、すべての人々にイエスキリストが必ず必要であるその確信が改めて見られ、強められ、またそのイエス・キリストの御名を大胆に分かち合うことが出来るように心からお祈りいたします！

③私たちが弟子たちのようにキリストの御名によってともに一つとなり協力する必要があります！

ペテロとヨハネと一緒に宮に上って行って、二人でペアになってイエスキリストの御名を与えました！**6節**に、「**すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」**」そしたら、**7-8節**では、たちまち美し門という宮の門の前で生まれてから足のきかなかったその人のあしとくるぶしが強くなり、踊り上がってまっすぐに立ち、歩き出したのです。

「**7**そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、**8**踊り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり、飛び跳(は)ねたりしながら、神を賛美しつつ、二人と一緒に宮に入って行った。」

彼の人生に神の奇跡が起こり、一生病気に縛(しば)られていた彼がその病から解放され、救い出されました！

そして、彼の口から神を賛美しながら、神の宮の門の外の境界線に座り込んでいた彼がついに神の宮に入りました！

このように彼の人生が救われ、癒され、変えられたこの神の驚きの奇跡が起こされるために用いられた人たちがペテロとヨハネでした！このペテロとヨハネ二人が協力し、主の御名を伝えた結果でありました。ここで大切に教えられることは何でしょうか。神はすべての人生が救われる御名、その救いの御名、驚くべき神の力ある御名、神に祝福され人生が癒され、回復さ

せる御名となるイエスキリストをすべてに与えて下さいましたが、いまだにその事実すら知らない多くの人々にどう与え、経験させることが出来るでしょうか。神は特別な方法ではなく、今日のペテロとヨハネのように、すでに信じ、神の恵みと力を体験して来た人々を通して、伝えられ、与えられようにして下さっていることを忘れてはいけません！

聖書の中、ペテロとヨハネは同じ町で一緒に育てられましたが、とっても対照的(たいしょうてき)で、以前は気が全く合わないタイプと性格の人たちでした！以前ペテロはとっても短気で、積極的な人でした。いつも弟子たちの中でもリーダーになりたがった弟子でした。ですからペテロは十分考えずに先に言葉や行動に移してしまった結果過ちもたくさんありました。反面、ヨハネはとっても受身的な人でした。静かで、いつも落ち着いていました。この二人はライバル関係でもありました。どう見ても合わない二人でした。ヨハネ福音書21章を見ると競争意識も強かった二人でした。

そんな二人が今は協力して二人が一つとなって、イエスキリストの御名を伝えていたことが分かります。時には、ユダヤ教の人々や偶像崇拝をしていた人々から二人がともに迫害を受けたり、苦しみも一緒に受けたりもします。今日の本文で二人と一緒に祈りの同労者、福音の同働者となった姿があったことが分かります。

今日の聖書の時もきっとペテロはヨハネより先に、足のつかえない人を見て、積極的にイエスの御名を伝えたには違いないでしょう。しかし、ヨハネはきっとペテロのそばで、しずかにその魂のために祈り続けながら支えていたかも知れません。

‘神様！今ペテロを用いて下さい。イエスキリストの尊い御名に力を下さってそれを聞いているあの人の人生の中にも、臨在し、御手を差し伸べて、彼を癒し、回復し、変えられるように助けてください。’

だれか先後ではなく、上下のような関係じゃありません。お互いがこのようにともに助け合い、支え合いキリストによる神の家族、兄弟姉妹であり、祈りの友となり、福音の同労者として主の働きにともにする大切な、欠かせない存在たちであることを忘れないでください。一人だけではなく、ともに協力し、共に仕えようとする時に、さらにイエスキリストの御名を通して、神の御業がおこされると信じます。是非各牧場は、牧者だけではなく、牧場家族助けと支えがなければ、神の御業が続けられません。教会も決して牧師一人では続けられません。キリストを信じる兄弟姉妹たちが心を合わせ、共に主の福音を分かち合い、共に人の救いの為にキリストの愛を持って仕え、協力する時に使徒の働きの聖霊の御業が続けられていくと信じます！

愛する主の教会の家族のみなさん！最後にこの話をして終わりたいと思います。以前みなさんに紹介した事がありますが、ローマのカトリック教会が盛んだ時、中世ローマカトリックは全ヨーロッパを支配した時がありました。当時教皇の権力は国の王よりも絶対できでした。その時、ある教皇が有名な信学者トマス・アクィナス(Thomas Aquinas)という人を皇室に招きました。彼は金で飾られた派手やかな教皇室と教会堂を見せながら、トマスにこう語りました。“初代教会の時には金銀は私にはないが”と言ったけど、“ほらトマス、今教会はこんなに大いに祝福され変わったぞ”これを聞いたトマスはこのような有名な答えを残しました。“**教皇様！しかし残念ながら今の教会には多くの金銀は得られたかも知れませんが、そのイエス・キリストの御名によって歩きなさい！**”という一番大事なイエスキリストの御名は見失ってしまっているのではないのでしょうか。”と指摘した有名な実話の話があります。真のイエスキリストの御名による信仰と御力が黄金によって真の教会の力さえ失ってしまい、墮落させてしまったと言ったトマス先生の警告を、今日の教会たちも、キリストを信じる私たちも大事に受け止めなければなりません。

今日ペテロは彼が望む金銀はありません。「金銀はわたしにはない」というペテロのことばは、金銀で飾られていた宮の美しいの門とも対照的です。しかし、ペテロには「ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい(6節)」と宣言し、その御名によって彼の手を取って立たせました！医者であるルカは、癒された人の姿を生き生きと描いています。古い宮の建物は彼を癒すことが出来ませんでした。新しい宮となるイエスは全人的癒しと救いを彼に与えて下さったのです！

私たちクリスチャンプレイズチャーチ全家族のみなさんももう一度我らに与えられ、今も生きておられ、今もともにおられるイエス・キリストを日々の祈りの中で心から信じ、確信し、日々体験することが出来ますように！また、我らに与えられた力あるイエスキリストの御名を用い、生かしてすばらしい神の恵みと愛の奇跡と祝福を協力するみなさんを通して分かち合われ、みなさんを通して、大事な人生の一人一人が、癒され、回復され、救われますように切に祈ります。私にあるもので一人の魂を立ち上がらせることに力を尽くしたいと願います！今日ペテロとヨハネのようにこれからさらに神の癒しと回復と救いと愛の管として、イエスの手足として、大いに用いられるクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福を切にお祈りいたします。アーメン！